



小学校所蔵文書の調査研究を進めています

小学校は、子どもの学習の中心であるだけでなく、保護者や周囲の大人も含め、地域活動の全体にわたって中心的な役割を担ってきました。小学校の歩みは、地域の歩みそのものでもあります。歴史研究所ではこれまで、小学校の所蔵する文書を、歴史資料として活用するための活動を進めてきました。保存年限の過ぎた文書を移管・整理するとともに、飯田市内を中心に学校所蔵文書の調査を行ってきました。

今年度から、科学研究費基盤研究「下伊那地域における学校史料と地域社会に関する基盤的研究」*と共同で、学校所蔵文書を軸とした地域社会構造の分析を目指し、本格的な活動を開始しました。

主な対象は、飯田市立追手町小学校および座光寺小学校です。

*課題番号：22320129

研究代表者：田嶋一（國學院大學教授）

研究期間：2010年度～2013年度（4年間）



追手町小学校2階廊下

追手町小学校は、旧飯田藩の文武所跡に「飯田学校」として1872（明治5）年に開かれて以来、飯田町地域の中核としてだけでなく、下伊那地域全体における教育の中核としての役割をも果たしてきました。所蔵文書も膨大で、1947（昭和22）年に飯田の街を焼き尽くした大火でも焼失を免れ、現在まで残されてきました。その中には、学校のみならず地域行政等に関する貴重なものも含まれています。



座光寺小学校は、1872年に寺院を借用して開校されましたが、その翌年に建てられた立派な校舎（舞台校舎）が有名です。この校舎は、生徒の増加に伴い増改築を繰り返し、1984（昭和59）年に学校が現在地に移転するまで使われてきました。現在は建設当時の姿に復元され、長野県宝に指定されています。この学校にも、長い歴史をたどる膨大な史料が残されており、寺子屋の教本、明治時代から現在に至る教科書類が全教科にわたってほぼすべて保存されています。

調査の様子。日本地図の掛図を開いてみたところ、第2次大戦後に軍港などが塗りつぶされ、縮小した領土には紙がはられていました。

2校とも巨大な文書群であるにもかかわらず、本格的な調査研究がほとんどなされてきませんでした。一部の史料は『長野県教育史』史料編に収められていますが、文書群としての網羅的な調査は初めてです。

現時点では現状記録調査を終えた段階で、本格的な調査研究はこれからですが、この取り組みによって、地域史研究に新たな視点をもたらすことができるものと期待しています。

シンポジウム参加記

ギヨーム・カレ (フランス社会科学高等研究院)

偶然なしに面白い研究はできない。「伝統都市を比較する—飯田とシャルルヴィル—」という日仏共同シンポジウムに参加して、改めてこう実感した。初めて吉田伸之先生とフランソワ・ジョゼフ・ルジウ先生をパリでお引き合わせした時、お二人の研究対象が偶然友好都市だった事も知らなかったし、飯田とシャルルヴィルが、フランスと日本の近世都市を比較するための絶好の地域である事も、最初は想像すらできなかった。実際、フランスの都市の大半はその原点がローマ時代に遡るので、発展過程や都市概念などを、中世末期から近世初頭にかけて創られた日本の城下町のそれと比較するのはかなり微妙である。しかしシャルルヴィルの場合は、近世フランスの領主政権が設けた新都市の珍しい例であり、時期的にも、規模的にも、社会の発展段階という観点からも、研究の枠組みが飯田とほぼ一致するため、社会と空間構造という立体的で具体的な比較考察が可能となるのである。

それは元々飯田とシャルルヴィルの間に縁があるという事かどうか分からないが、今回のシンポジウムはフランスの研究者にとって、日本とフランスの伝統都市の比較史に止まらず、フランス近世史の幾つかの要素を再考する上での刺激剤になった。つまりフランス人の参加者が日本の論文を読んで、今まで当たり前のように見ていた近世フランスにおける複数の歴史状況、たとえば都市に対する領主政権の本質、あるいは乞食のあり方などを問い直す必要性を痛烈に感じ、それについて熱心な議論がなされたのである。

このことこそが、今回のシンポジウムの有意義な点であった。そしてその成果は、吉田伸之先生と一緒に長年追求してきた日本とフランスの史学交流の産物でもあったので、これまで数々のあまり実りのない国際シンポジウムに参加した経験のある私にとって、大変満足のいくシンポジウムだった。と同時に、これが今後の共同研究促進の推進力となると確信している。最後になるが、シンポジウム開催に向けて様々な準備に当たられた若い研究者の方々に感謝の意を表したい。

歴研ゼミ

12月・1月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。
各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

- 時間 午後7時～8時40分 (各ゼミ共通)
- 場所 歴史研究所2階研修室 (各ゼミ共通)

思想史ゼミ ■担当 池田勇太研究員

■開催日 12/1・12/15・1/19 (第1・第3水曜日)
※1月第1水曜日は休講とします。

近世史ゼミ ■担当 竹ノ内雅人研究員

■開催日 12/7・12/21・1/18 (第1・第3火曜日)
※1月第1火曜日は休講とします。

近現代史ゼミ ■担当 田中雅孝調査研究員

■開催日 12/9・1/13・1/27 (第2・第4木曜日)
※12月第4木曜日は祝日のため休講です。

建築史ゼミ ■担当 金澤雄記研究員

■開催日 12/14・1/11 (第2火曜日)
※12月14日はフィールドワークを行います。

地域史講座 飯田・上飯田の歴史

2011年1月15日(土) 午後2時～4時

幕末の飯田藩主
—堀親義の隠居について—

- ・講師 池田勇太 (研究員)
- ・場所 羽場公民館2階講義室

飯田アカデミア2010

第61講座

さかえはら とわお

講師 栄原 永遠男さん

(大阪市立大学教授)

古代史に関する最近の問題点

2月5日(土) 13:30～17:00

万葉歌木簡の発見

滋賀県の紫香楽宮跡で万葉集と同じ歌が木簡に書かれていたと大きく報道されると、続けて二点も同様の木簡が見つかりました。万葉歌木簡の発見の事情、意義を詳しくのべます。

2月6日(日) 10:00～14:30

富本銭の铸造と発行

奈良県の飛鳥池遺跡の調査で、富本銭が和同開珎より古く、ここで铸造されたことなどの重大事実が明らかになりました。飯田市でも発見された富本銭について詳しくのべます。

会場 りんご庁舎3階会議室
定員 30人
受講料 1講座 500円 (資料代)
申込み

電話、FAXまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。

『上郷小学校100年の歩み』 発刊を目指して

上郷小学校 伊坪達郎

明治45年に上郷の東西小学校を統合して、上郷尋常高等小学校が開校してから、平成23年でちょうど100年となります。その歩みをまとめるべく百周年準備委員会では、記念誌発刊の準備を進めています。その際学校の歩みを知る史料の多くが、数年前飯田市歴史研究所に移管されていることがわかりました。そこで、早速閲覧をさせてもらい史料の全貌をつかむことにしました。

現状記録をとり仮目録が作成されていましたので、それをもとにして史料にあたりました。統合以前の記録から、最近の記録まで様々なものが入り交じっていることがわかりました。かなり抜けてしまっている部分もあります。しかし大きな流れはつかめそうであることや、時代の特色を表すような出来事をまとめることができそうであることがわかりました。また今日にいたっても維持されていることの起こりを知る貴重な史料もありました。現在記念誌の大まかな項目立てをし、執筆に必要な史料を読んでいます。

先輩の先生方の苦勞や努力に触れたり、児童の様子などがわかると、現在の自分たちと重ね合わせて、いろいろ考えることもあります。全てを網羅できませんので、学校にとって記録すべきことを吟味しながら、作業を進めていきたいと思っています。



2010年度飯田歴研賞受賞作品

豊丘史学会『豊丘風土記』第二十輯・記念号、2009.8

「歴研賞受賞について」

豊丘史学会 会長 原嘉彦

突然の受賞で驚きました。

豊丘風土記20輯に引き続き、目下21輯の編集にとりかかっているところです。

豊丘史学会の会報は原則として年3回発行していますが、まもなく111号の刊行が行われる予定です。

歴研賞は、豊丘史学会の今迄の「歩み」に対する賞であると受け止めて、今後も豊丘史学会が、ずっと長く継続していくようにと役員一同 心を新たに決意しているところです。

ありがとうございました。

豊丘史学会の経緯

郷土史誌『伊那』を発行する伊那史学会の豊丘支部として約300人で発足。

風土記は当初「豊丘村民話集」として発行されたが、内容の幅を広げるために第8号から「豊丘風土記」に改めた。

昭和47年

豊丘史学会設立

昭和52～58年

豊丘村民話集 第1～7輯刊行

昭和60～平成21年

豊丘風土記(改題) 第8～20輯刊行

サポーター募集

『胡桃澤盛日記』の魅力、可能性

胡桃澤盛日記刊行会 橋部進

飯田市歴史研究所「近現代史ゼミ(田中雅孝ゼミ)」が3年越しで取り組んできた、戦争中に旧河野村村長であった胡桃澤盛(くるみざわ もり)の大正12年から昭和21年7月まで24年間にわたる日記(村長日誌を含む)は、同研究所の監修を得て出版にむけた活動が開始されました。来年度5月発刊にむけて、有志による『胡桃澤盛日記刊行会』を立ち上げました。会員は伊坪俊雄、胡桃澤健、齊藤俊江、田中雅孝、筒井芳夫、橋部進の6名であります。歴史研究所から神奈川大学の森武麿教授、池田勇太研究員、その他の方々の全面的な協力をいただいております。

全6巻を刊行するという大事業の責任の重大性を今更ながら実感しています。

この「日記」の魅力は、なによりも胡桃澤盛という人物の感受性の鋭さと広さによる思いの語り方、誠実な人間性、メンタリティーの高さ、表現力の豊かさにあります。その想いの綴られ方は、農民日記の分野をはるかに凌駕するもので、ほとんど文学作品といえる場面が多々あります。

また、下伊那郡河野村(現豊丘村)という地方農村というトポスにて自己、家庭、農業、ムラ、地域、国家、世界をリアルタイムで呼吸している「日記」は、いろいろな角度から読むことが可能であります。農事日誌として、家庭の風俗誌として、ムラの生活誌として、村政の記録としてetc...

私たち会員は、24年にわたる「胡桃澤盛日記」は、そのまま、あの時代の、この地域ひいては日本の農村の民衆精神史であり、現在につながる問題をはらんでいると考えます。

昭和初めの恐慌のなかで人々は、地域はどうやって生活をしてきたのか、または、できなかったのか。ムラは、地域はどのように戦争にかかわっていったのか、あるいは、巻き込まれていったのか。多くを読み解くヒントがここにあると思います。

私達は「胡桃澤盛日記全6巻」の刊行につきまして、皆様には賛助会員(入会金 15,000円 日記全6巻刊行時順次お渡し)になっていただき、魅力あふれる「胡桃澤盛日記」を、是非、手にしていただくことをお願い申し上げます。

定例研究会

場所：歴史研究所 2階研修室 時間：午後2時～4時

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

(1) 12月4日(土) **なぜ、羽生三七であるのか また、なぜ、胡桃澤盛であるのか**
講師：橋部 進さん(市民研究員)

(2) 1月21日(金) **文書目録作成を通して**
講師：竹ノ内雅人(研究員)・長沼雅子さん(調査協力員)

歴研日誌

10月

- 9月30日 旧上郷有線放送記録テープ資料引受け
- 1日 北原市誌編さん担当専門幹着任
- 1日 歴研ニュース48号発行
- 2日 義勇軍シンポジウム「満蒙開拓青少年義勇軍とは何だったのか」出席及び書籍販売
(本島調査研究員・齊藤客員研究員・向山補助員)(松本市)
- 5日 近世史ゼミ「岡島旭家文書より「一札」」
- 6日 思想史ゼミ「福田恆存「日本人の思想的態度」」
- 7日 防災シンポジウム「36年伊那谷災害50年に向けて」出席(本島調査研究員)
- 7日 飯田・上飯田の歴史」下巻編集会議
(飯田文化会館・川路かわらんべ・松川町旧生田中学校跡)
- 8～10日 ブラジル乗船名簿(戦後)調査及び関係資料調査シンポジウム「アジアにおける人の移動の「いま」と「これから」」出席(本島調査研究員)(国立国会図書館)
- 12日 建築史ゼミ「移築」
- 14日 平和資料収集委員会 資料整理プロジェクト会議(池田研究員)(教育委員会)
- 14日 近現代史ゼミ「大正12年の南信新聞と胡桃澤日記」
- 15～17日 第10次旧南信濃村役場文書調査
- 18日 「胡桃澤盛日記」豊丘村史学会説明
- 19日 近世史ゼミ
「五月十一日付野原半三郎宛片桐衛門の書簡より」
- 20日 『胡桃澤盛日記』刊行計画 飯田市定例記者会見
- 20日 思想史ゼミ「金時鐘『「在日」のはざままで』」
- 21日 上片桐町を語る会学習会講演「飯田・下伊那の本棟造りと養蚕農家」—金澤雄記研究員(松川町上片桐)
- 21・22日 桜井好春氏聞き取り(かすみがうら市)
- 22日 原一男氏聞き取り
- 22日 文献資料保存講習会・史料保存活用協議会出席(長野県立歴史館)
- 23日 弓谷梅治氏撮影写真資料受取り(瀬戸市)
- 26日 『飯田・上飯田の歴史』編集会議(東京大学)
- 27～29日 職場体験実習受入れ(竜峡中学2年生)
- 27日 ブラジル乗船名簿(戦後)調査及び関係資料調査
- 28日 近現代史ゼミ「大正12年の南信新聞と胡桃澤日記」
- 29日 定例研究会「飯田の街角の文字のデザインと歴史を見つめる」—林武史市民研究員
- 30・31日 飯田アカデミア第60講座
「分断下、韓国の(民権国家)への歩み」—金早雪さん(信州大学経済学部教授)(りんご庁舎)

11月

- 1日 多文化共生「歴史的グローバルシティ・飯田市」の総合研究プロジェクト説明会
(本島調査研究員・齊藤客員研究員)
 - 2日 近世史ゼミ「飯田萬年記5」
 - 4日 古文書レクチャー 古文書読解篇1
 - 6日 地域史講座「飯田・上飯田の寺社の役割」—竹ノ内雅人研究員
 - 6日 羽場地区文化祭古地図展示
 - 8～13日 短期アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会)(名古屋大学博物館)
 - 9日 平和資料収集委員会 資料整理プロジェクト会議(本島調査研究員)(教育委員会)
 - 9日 建築史ゼミ「火見櫓・ポスト」
 - 10日 「地域と世界」講座サポーター講義「外国人労働者と流動化する雇用」—本島和人調査研究員(松本大学松商短期大学部)
 - 11日 アーカイブズ・カレッジ短期コース講義「地域における近世アーカイブズの調査と収集」—竹ノ内雅人研究員、「地域における近現代アーカイブズの調査と収集」—池田勇太研究員
 - 11日 近現代史ゼミ「大正12年の南信新聞と胡桃澤日記」
 - 13・14日 政治経済学・経済史学会 秋季学術大会(坂口調査研究補助員)(首都大学東京)
 - 16日 近世史ゼミ「村方へ借金する町人」
 - 17日 古文書レクチャー 古文書読解篇2
 - 17日 思想史ゼミ「金時鐘『「在日」のはざままで』」
 - 18日 就業体験受入れ(松川高校1年生)
 - 22日 教育委員会『飯田・上飯田の歴史』(仮題)刊行計画決定
 - 22日 出前講座「満州移民」(向山補助員)(鼎中学校)
 - 27日 定例研究会「松尾村『満洲開拓地調査報告書』を読む」—本島和人調査研究員・齊藤俊江客員研究員
- 継続調査
部奈一朗氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、上松家所蔵文書、小林八十吉氏文書、原常吉氏所蔵文書、鎮西徹氏所蔵文書、阿智村伍和木下家文書、下清内路小栗家文書、中原謹司氏史料、岡島旭氏所蔵文書、今村八束氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、八幡町犬塚家所蔵文書、座光寺久男氏史料、佐々木久孝氏文書、岩戸久義氏所蔵文書、松田初美氏文書、田中伍市氏関係文書、千代嶋岡和治氏所蔵文書

12月 催事スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
			12/1	2	3	4
			思想史ゼミ NL49発行	パネル展示 12/1～13		定例研究会
5	6	7	8	9	10	11
		近世史ゼミ		近現代史ゼミ		
12	13	14	15	16	17	18
		建築史ゼミ	思想史ゼミ		南信濃調査 12/17～19	
19	20	21	22	23	24	25
		近世史ゼミ				
26	27	28	29	30	31	
						1/1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
		建築史ゼミ		近現代史ゼミ		地域史講座
16	17	18	19	20	21	22
		近世史ゼミ	思想史ゼミ		定例研究会	
23	24	25	26	27	28	29
		三島市議会		近現代史ゼミ		
30	31					

開所日 休所日

開所時間 午前9時～午後5時
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日